塚田こども医院
ヘルス・レター

水痘予防接種
617

水痘（すいとう）予防接種

水痘（水ぼうそう）はワクチンで予防できる感染症です。最近では良い治療薬ができ重症になることは少なくなりましたが、やはりかからない方がいいですね。

満１歳になったら早めに受けましょう。法定接種の年齢幅が短いですので、注意して下さい。

また50歳以上の方の帯状疱疹に予防のためにも接種できるようになりました（任意接種）。

世界の子どもにワクチンを
日本委員会

塚田こども医院

一口メモ

予防接種の注意・お願い

予防接種を安心して受けるために、いくつかのことを心がけてください。

○受ける予防接種について、病気のことやワクチンの効果・副反応などについて、あらかじめ知っていてほしいと思います。市町村からの文書や、育児書（雑誌）なども参考にしてください。分からないことなどがありましたら、会場の職員や医師にたずねてください。

○健康状態の良い時に受けましょう。心配なときは無理せずに延期したり、医師に相談してください。

○前日は入浴して、体を清潔に。

○予診票は、良く読んで、きちんと記入しましょう。

○母子手帳も忘れずに。（個別接種では、念のために保険証も）

○接種の会場で、体温を測り、記入します。

○予期できない重篤な副反応が、注射のあと15～30分以内におきることがあります。すぐに帰らず、しばらく会場で様子を見ていてください。

○接種の当日は、入浴をふくめていつもと同じ生活でいいのですが、激しい運動はさけてください。

水痘（すいとう、水ぼうそう）は、健康な小児ではあまり重症ではありませんが、白血病などの基礎疾患をもち、体の抵抗力が落ちている子どもがかかると、死にいたることもある病気です。水痘ワクチンは、このような子どもに接種するために、日本で開発されました。接種をかさねてきて、大きな副作用がなく、普通の小児に対して接種しても問題ないことが確認され、現在、世界中で日本製のワクチンが使われています。

水痘には良い治療薬があり、軽くすませることができますが、保育園や幼稚園などの集団の中で、たえず流行がくりかえされていますので、かからないようにワクチン接種をしておくことは大切です。

水痘ワクチンは１回の接種ではやや効果が弱いため、２回の接種が必要です。また接種の間隔は３か月以上（標準は６～12 か月）で行います。

大きな副作用は特にありません。集団生活に入る前に受けておかれることをおすすめします。(大人の方にも接種できますので、もし、子どものころにかかっていないようでしたら、ぜひ受けてください。)

水痘にかかると、このウイルスがそのまま体の中（神経節）に残って、のちに**帯状疱疹**という病気をおこすことがありますが、水痘ワクチンを接種することで帯状疱疹も予防できるといわれています（任意接種）。

平成 26 年 10 月より、予防接種法による定期接種となりました。年齢に制限があり（満１歳と２歳のみ）、それを超えているお子さんは任意接種で受けて下さい。

水痘予防接種

予防接種法による定期接種：

１歳～３歳未満（２回）

１回目：１歳～１歳３か月

２回目：１回目から３か月以上あける

（標準は６～ 12 か月あける）

帯状疱疹の予防（任意接種）：

対象：50 歳以上

予防接種を受けたあとの注意

※予防接種の副作用として、ごくまれに、注射の直後に急に具合の悪くなることもあります（**アナフィラキシー・ショック**）。万一のために 15 分程度は医院の中にいていただき、そのあともしばらくは医院にすぐひきかえせるようにしていてください。（その場で適切な処置をすれば、最悪の事態はさけられます。）

●水痘ワクチンは、弱毒化してある**注射生ワクチン**です。

●次に注射生ワクチンを受ける場合は **4 週間（中 27 日）以上**あけて受けてください。その他のワクチンは制限はありません※

※ 2020 年 10 月改定

水痘（すいとう）ワクチン

❶今日は激しい運動は避けてください。**入浴はかまいません**。

❷注射したところが赤くなったり、腫れることはほとんどありません。

❸健康な小児や成人では、ほとんど副作用はありません。

❹病気などで抵抗力の落ちている小児では、接種後 14 ～ 30 日で、軽い水ぼうそうの症状がでることがあります。